

生きる力を支える確かな学力の育成

～互いに認め合い自己肯定感がもてる集団づくりと、活用する力を育む授業づくり～

I 研究の内容

1 具体的内容

(1) 集団づくり

- ・学級力アンケート（年3～4回）を実施して、学級の実態を把握し、改善・向上に向けた活動に取り組む。
- ・学級力ミーティングを年2回実施し、各学級の取組の様子を情報交換し合う。

(2) 授業づくり

- ・3つの学び（体験的な学び・学び合い・振り返る学び）を意識して、授業計画を立てる。
- ・算数科，理科において活用学習の授業実践を行い，改善を図る。

(3) 学習習慣づくり

- ・やわたタイムの効果的活用（毎月第2週は読書，あとは朝学習の時間）
- ・家庭学習の充実（自主学習の方法とメニューづくり）

2 研究実践

(1) 学級力向上のための取組

- ・学級力向上プロジェクトについての学習会
- ・学級力アンケートを活かした集団づくり
- ・学級の取組を紹介し交流する学級力ミーティング（8月・12月）

(2) 授業実践

- | | | | |
|-------|-------|------------------|---------|
| ・第1学年 | 算数科 | 「けいさんぴらみっど」 | 真坂 茂子教諭 |
| ・第2学年 | 算数科 | 「九九をつくろう」 | 水上久美子教諭 |
| ・第3学年 | 算数科 | 「時こくと時間」 | 山元和香子教諭 |
| | 指導・助言 | 県教委義務教育課 主査・指導主事 | 笠井さゆり先生 |
| | 〃 | 峡東教育事務所 指導主事 | 三森 公仁先生 |
| ・第4学年 | 算数科 | 「わり算の筆算を考えよう」 | 日野原和貴教諭 |
| | 理科 | 「ものの体積と温度」 | 古屋 雅章教諭 |
| ・第5学年 | 算数科 | 「比べ方を考えよう」 | 鈴木 陸人教諭 |
| ・第6学年 | 算数科 | 「割合の表し方を考えよう」 | 畠山 忠 教諭 |
| ・あおぎり | 算数科 | 「差や和に目をつけて」 | 武井 浩 教諭 |
| ・たんぼぼ | 算数科 | 「広さを調べよう」 | 赤荻 美弥教諭 |

(3) 家庭学習の充実のための取組

- ・八幡小独自の自主学習ノートの作成（きりっこノート）

II 成果と課題

1 成果

- ・ビックカルタ、学級力アンケート、レーダーチャートへの取組を全体で確認して各学級で創意工夫した活動を実践した結果、学級としての高まりが見られるようになってきた。また、どの学級にもレーダーチャートを掲示したことで、子どもたちの意識化を図ることにつながった。
- ・教師間の情報交換会である学級力ミーティングを2回実施して、他の学級がどんな活動を実践しているのか知ることができたり、自分の学級に活用したりすることができた。
- ・3つの学びとともに、「やまなしスタンダード」の中のめあてと振り返りを意識した授業実践ができた。
- ・算数科や理科の活用学習に取り組み、管理職の先生方の適切なアドバイスで実践が深まり、改善プランにつなげることができた。
- ・家庭学習の習慣化に向けて、本校独自の自主学習ノートを作成することができた。ノートを使って自主学習に取り組む子どもたちが、徐々に増えてきている。
- ・自主学習掲示コーナーを設けたり、授業参観の折に自主学習ファイルを展示したりしたことで、多くの人に取組の様子を伝えることができた。子どもたちの意欲にもつなげることができた。
- ・「8の付く日」に自主学習ノートを綴じ込んだファイルを持ち帰り、保護者から子どもたちに向けた賞賛や激励の一言コメントの記入が定着してきた。

2 課題

- ・学級力向上に関わっては、子どもたちの実態に合った活動の幅を広げていく必要がある。また、教師主導から子どもたちが主体的に取り組む方法を考えていくようにする。
- ・活用学習に取り組む中で、自分の考えがもてるようになったり三段階論述の力が身に付いたりしてきているが、今後も基礎的・基本的内容の確実な定着を意識して授業づくりを進めていくことが求められる。
- ・家庭学習に進んで取り組む子どもたちがいる一方で、なかなか取り組めない子どもたちもいて個人差が大きい。習慣づくりを整えることが必要である。
- ・自主学習の内容にも課題があり、同じような内容を繰り返して広がらないことがある。評価の工夫、新しい内容の伝達、ベストノートの紹介などを通して自主学習の質を上げていくようにする。

III 成果物

- ・算数科、理科における活用学習の指導案及び学習シート
- ・自主学習のやり方とメニュー表（低・中・高学年用）
- ・自主学習ノート（きりっこノート）の作成…（現在9種類）

（研究主任 水上久美子）